



感染症について



※主治医の診断をうけて登園許可書を提出してください

	病名	潜伏期間	感染可能期間	主な症状	登園基準
1	インフルエンザ (様疾患)	1~2日	感染後約10日	発熱・全身倦怠・筋肉痛・ 鼻カタル・咽頭痛・咳	解熱した後2日を経過し元気が良い時
2	百日咳	6~15日	感染後約3週間	発作性咳の長期反復・持続	特有の咳が消失した時
3	麻疹(はしか)	10~12日	発疹出現の前後 4~5日	上気道のカタル・発熱・粘 膜疹コプリック班	発疹を伴う熱が下がった後3日経過し元気が良い時
4	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	14日~24日	明らかな症状を示す7日前からその後9日続く	発熱・耳下腺・舌下腺・顎 下腺の腫脹及び圧痛	耳下腺の腫れが消失した時
5	風疹 (3日ばしか)	14日~21日	発疹出現の前後 7日間	種々の発疹・軽熱・リンパ 腺腫大	発疹が消失した時
6	水痘 (水ぼうそう)	11日~20日	水痘発現前 2日~発現6日	軽熱・被覆部の発疹斑点丘 疹上→水痘→顆粒状痂皮	全ての発疹が痂皮(かさぶた)になった時
7	咽頭結膜熱 (プール熱)	5~6日	潜伏期後半~発 症後約5日間	発熱・全体倦怠・咽頭炎と 結膜炎の合併症	解熱し、主要症状がなくなった後2日経過してから
8	流行性角結膜炎 (はやり目)	1週間以上	発病後約2週間	軽熱・頭痛・全身倦怠・結 膜の炎症・眼瞼浮腫目やに	治癒するまで
9	急性出血性結膜炎	1~3日	発病後約4日	流涙・結膜充血・眼瞼浮 腫・滲出液	治癒するまで
10	ヘルパンギーナ	2~7日	/	高熱・咽頭痛・咽頭に水疱	解熱し食事也十分できて元気になった時
11	手足口病	2~7日	水疱消滅まで	感冒様症状・手足口に赤班 →水疱	元気がよければ登園可能
12	伝染性紅班 (りんご病)	4~21日	風邪症状から顔に 発疹出現するまで	顔面紅班(とくに頬部の赤 班制発疹)	感染力はにので元気が良ければ登園可能
13	溶連菌感染症	2~4日	潜伏期後半~ 発症後約7日間	発熱・咽頭痛・扁桃腺炎・莓 下・頸部リンパ節炎・全身に発 疹	有効治療を始めてから24~48時間経過してから
14	感染性胃腸炎 ノロ・ロタ・アデノウィ ルス	1~4日	/	発熱・下痢・嘔吐	主な症状がほとんど消失し主治 医・園医が登園を認めた時
15	マイコプラズマ肺 炎	10~24日	/	咳・発熱・呼吸困難(重症 の場合)	症状が改善し元気であれば登園可 能
16	突発性発疹	約10日	発熱中	高熱・3日後に全身に発疹	主な症状がほとんど消失し主治 医・園医が登園を認めた時
17	単純ヘルペス感染 症	2日~2週間	/	口内炎症・口周辺の水疱	症状が改善し元気であれば登園可 能
18	伝染性膿痂疹 (とびひ)	2~10日	水疱消滅まで	主として豆つぶ大の水疱 (自覚症状あまりなし)	他人への感染のおそれがないと主 治医が認めた時
19	伝染性軟属腫 (水いぼ)	14日~50日	不明	球状のいぼ	他人への感染のおそれがないと主 治医が認めた時
20	結核	2年以内	喀痰の塗抹検査 が陽性の間	発熱・咳・呼吸困難・チア ノーゼ・髄膜炎など	主治医が感染のおそれがないと認 めたとき
21	腸管出血性大腸菌 感染症 O157・O26・O111など	1~8日	便中に菌が排泄 されている間	激しい腹痛・水様便・血 便・発熱	症状が治まり、抗菌薬治療が終了 し、検査で菌陰性が確認された時
22	帯状疱疹	不定	全ての発疹が 痂皮化するまで	神経痛・刺激感・掻痒	全ての発疹が痂皮化するまで
23	RSウイルス感染 症	2~8日	乳児は3~4週間	発熱・鼻汁・咳・喘鳴・呼 吸困難	重篤な呼吸器症状が消滅し、全身 状態が良いこと
24	A型肝炎	15~50日	発症1~2週間前 がピーク	発熱・全身倦怠感・食欲不 振・悪心・嘔吐	肝機能が正常と認められたとき
25	B型肝炎(急性)	45~160日	B型感染ウィルス が検出される期間	全身倦怠感・発熱・食欲不 振・黄疸など	急性肝炎の場合、症状が消滅し、 全身状態が良いこと
26	アタマジラミ	10~14日	産卵から孵化する まで10~14日間	無症状・かゆみ	駆除を開始していること